

Homework 1

S1240078 Tomonori Masubuchi

今回紹介するのはアランチューリングです。コンピュータ科学および（チューリング・テストなどから）人工知能の父とも言われてる。そんなアランは母エセルと父ジュリアス・チューリングの間に生まれた。父は当時インド高等文官であり、任期が続いていて両親はインドとイギリスのヘイスティングスを行き来する生活を送っていた。アランは親の友人に預けられ、それを期に文字やパズルなどを覚えていった。特に数学が得意であった。それだけにとどまらず、入学した学校では担任教師に続き、校長もすぐに彼の才能に気づく。

そして名門のシャーボーン学校に入学し才能が開花した。特に科学と数学。

アランはとどまることを知らず色々な開発など貢献をしてきた。チャーチ=チューリングのテーマと計算可能性理論への貢献が、まず真っ先に挙げられる。特に、アルゴリズムを実行するマシンを形式的に記述したものの一つである「チューリングマシン」にその名を残し、人によっては前述のテーマを「チューリング=チャーチ」と呼称するべきであるとする者もいるほどである。さらに、理論面だけではなく、実際面でもコンピュータの誕生に重要な役割を果たした。

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%A2%E3%83%A9%E3%83%B3%E3%83%BB%E3%83%81%E3%83%A5%E3%83%BC%E3%83%AA%E3%83%B3%E3%82%B0>